

平成27年度（第59回）
岩手県教育研究発表会 発表資料

『いきる・かかわる・そなえる』分科会

防災教育を中心とした実践的安全教育について
～ 実践的安全教育総合支援事業モデル校指定を受けて ～

平成28年2月10日
花巻市教育委員会
花巻市立東和中学校

1 はじめに

東日本大震災津波から約5年が経過した。被災地の復興は着実に進められてきているものの、まだまだ震災前の生活に戻るには時間がかかる。

被災地である沿岸地区での被害にはほど遠いが、内陸部でも多くの被害が生じた。今の中学生は、大震災発生時は小学校2年生から4年生であったが、本校の生徒も大きな揺れや近所での停電、断水、がけ崩れ等も身近な経験となっており、これまで当たり前と思っていた生活が出来ることがいかに幸せことであるのかという思いも持っている。

今回のモデル校指定を受けて、改めて自分たちの地域の防災に関する状況を知るとともに、実践的な取り組みを通して地域で出来る防災活動や自分たち中学生が地域に貢献できる活動等について、あの大震災発生時のこと振り返りながら考えさせたい。そして、地域の一員として社会の役に立てるような意識の醸成と実践力を高めたい。

2 実践的安全教育総合支援事業モデル校の指定

本校では、平成27年度に標題のとおり文部科学省と岩手県教育委員会の指定を受けて、『実践的安全教育総合支援事業モデル校』として防災教育を中心とした実践的安全教育に取り組んできた。

その事業の趣旨は次のとおりである。

災害についての正しい知識や災害発生時の対処法、日常の防災のあり方等について実際の避難訓練等から理解を深めるとともに、自分たちができる復興に関する支援活動に取り組むことを通して、様々な人とのつながりに気づき、学んだことを地域に発信することができる生徒の育成を目指す。

また、「いわての復興教育」副読本を道徳の授業（導入・展開・終末）を中心に活用するとともに、被災地から震災を体験した方々を講師として招聘し講演を聞くことにより、復興教育に対する意識を高め、自らの実践に生かすことができるような生徒の育成を目指す。

指定を受けて花巻市教育委員会と相談し、本校ならではの取り組みや地域と連携した取り組みについて検討しながら、次の「具体的な取り組み」の内容で進めることとした。

3 具体的な取り組み

- (1) 東和地区防災教育実行委員会の立ち上げ（小・中合同避難訓練を中心に）
- (2) 授業実践（道徳・防災教育）
- (3) 中学校避難訓練
- (4) 小学校・中学校合同避難訓練
- (5) 震災に関する学習（講師による講演会）
- (6) 体験学習（地域での校外支会活動等）
- (7) 生徒会ボランティア活動
- (8) 地域での報告発表（東和地区教育振興運動の集いにて）

4 東和地区防災教育実行委員会

- ・東和小学校、東和中学校「合同避難訓練について」を中心に
- ・東和総合支所、東和派出所、東和消防署、東和町内自治会、自主防災組織等で構成
- ・「合同避難訓練」には地域の方々にも参加していただく方向で来年度も継続予定

5 東和小学校・東和中学校合同避難訓練

- ・東和町内の田瀬湖、猿ヶ石川の決壊を想定し、高台の中学校へ避難
- ・迎える中学校では、避難してきた小学生のために自分たちが出来ることを検討
⇒ 安心して中学校に避難して来られるように・・・
- ・「災害発生は学校にいるときだけとは限らない」
⇒ 地域の避難所での対応のために同じ地区の小学生と中学生とで交流

6 防災教育講演会

講師 盛岡市立見前南中学校 副校長 三浦 剛先生（震災時、大槌中学校副校長）

テーマ「生かされた命」

生徒の感想より

- ・講演を聞いて、たくさんの絆を感じることができました。
- ・東和には津波は来ないけど、森が多く大きな川もあるので、いつ何が起こるかわからないことを忘れないで暮らしていきたい。
- ・3.11を忘れずに、一生懸命生きていかなければならないことを実感した。
- ・講演を聞いて、普段の普通の生活がどれだけ幸せなのかと思った。
- ・生きていること、命の大切さを教えていただきました。
- ・避難所での中学生や高校生の行動力は素晴らしいと思います。私も同じような立場になったら自分から進んで動ける人になりたいです。
- ・あの東日本大震災を風化させてはいけないと強く思いました。私も今日教えていただいたことを語り継いでいきます。
- ・内陸でも何が起こるかわからないので、まずは自分の命を守り、そして他の人の命を守れるように行動したいです。

7 おわりに

今回のモデル校指定を受けての実践を通して、生徒が防災について考える機会をたくさん作させていただくことができた。特に防災教育講演会では、自分たちは直接見ていない東日本大震災津波の時のお話を聞きして正しく理解し、もし自分たちのところで災害が発生したときには何を考え、どう行動するべきかを学ぶ良い機会とさせていただいた。

また、東和地域全体で防災について取り組んだことで、生徒はもちろんのこと大人も一緒に防災について考えることができたことも地域の方々に喜んでいただいており、まさに「地域みんなの命を地域みんなで守る」ことに繋がっていると感じた。

今年度の実践では、「小学校・中学校合同避難訓練」の事前学習において、全校道徳（防災教育）の授業を行ったが、通常の道徳の授業（導入・展開・終末）での「いわての復興教育」副読本を活用した授業実践には十分に取り組むことができなかった。次年度以降において、道徳の年間指導計画の中にも、副読本の活用場面を位置付けながら実践していきたい。

今後も、今回の実践を無理なく継続しながら、さらに地域の防災意識が高まっていくように、そして万が一の際に小学生と中学生が、避難所に集まつてくる方々の力となって活躍してくれるよう交流と実践の機会を作っていくたい。

道徳教育（復興教育）の全体計画

